

ごんぎつね（大声を出して読む）

物語「ごんぎつね」（新美南吉）を上手に音声表現するには、いくつかのテクニックを知っていると、うまくいくでしょう。これらテクニックについて、これから先、書きつらねていきます。

次の文章にある三つの会話文は、大声を出して読まなければなりません。

大声を出して読む会話文は、えんりよしないで、はらのそこから声出して、どっかーんと、いきおいのある、おもいつきりの大声で読みます。

ひっこめた、おさえた声で読んではいけません。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、その、いせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助のおかみさんが、うら戸口から、

「いわしをおくれ。」

と、言いました。

そのとたんに兵十が、向こうから、

「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」

と、どなり立てました。